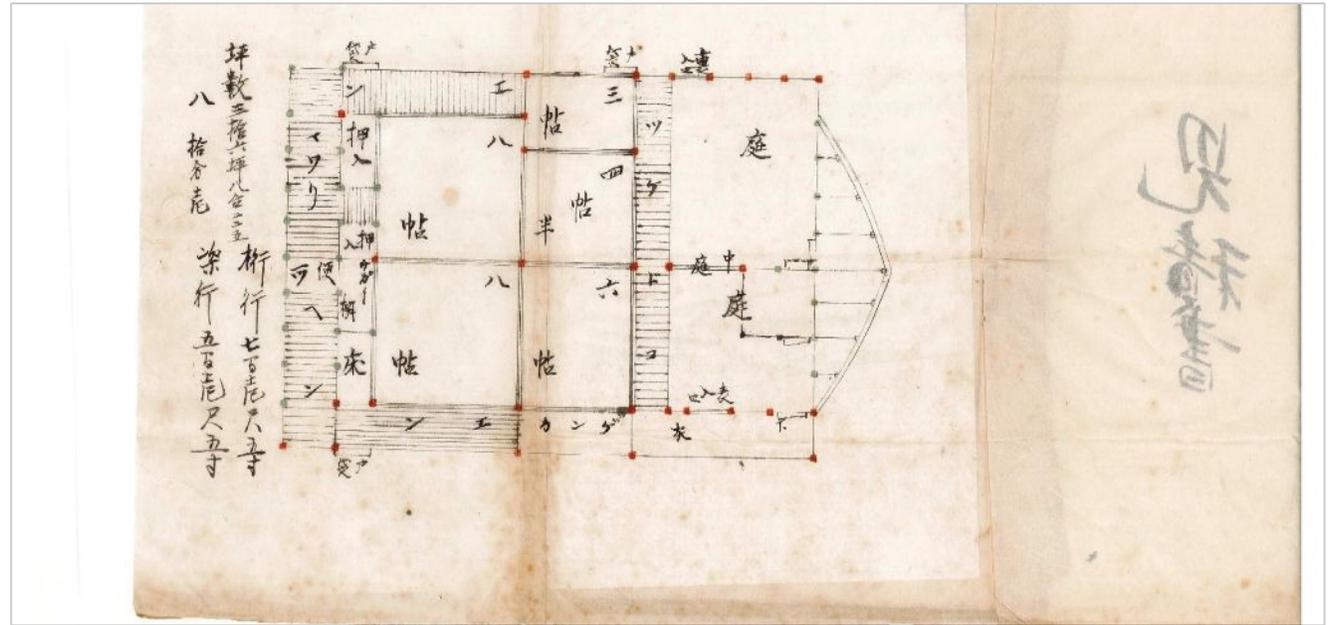


築100年越え!?
歴史ある祖父母の家に迫る
2年G組神村 真生

概要



延床面積:36坪8合225尺

→現在の単位で129m²

桁行:7丈1尺5寸

→現在の単位で21.6m

梁行:5丈1尺6寸

→現在の単位で15.5m

建物面積 129m²

土地面積1020m²

間取り:5LDK

→内訳八畳二間、四畳二間、3畳

玄関:正面玄関、表入口、裏入口
庭有り

建設時期:大正6年

建設費用

見積書より

左官剥がし、中塗り、上塗り

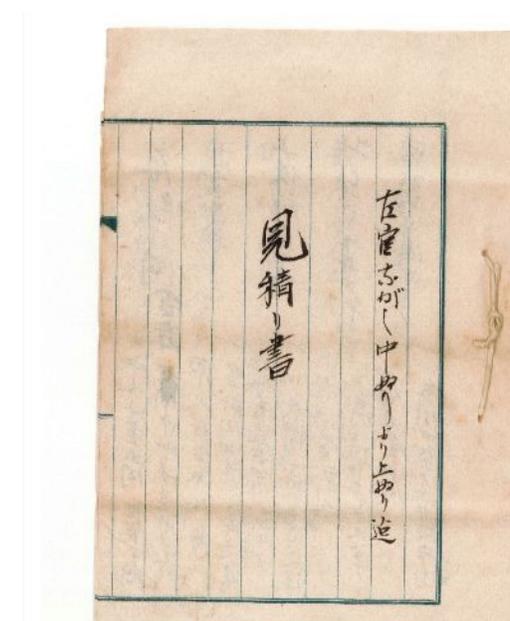
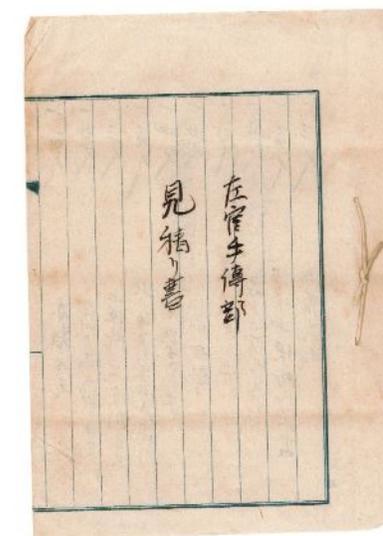
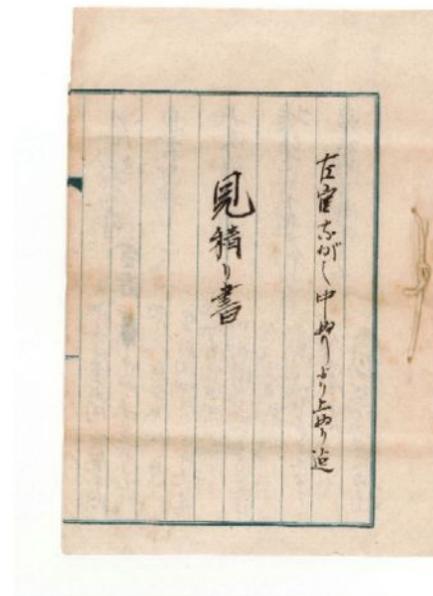
→¥308 現在では1,232,000

左官手伝部

→¥14 現在では¥56,000

設計料、資材料

→¥830 現在では¥3,320,000



建築に 関わった 人々

左官塗り手伝部 **23**人

手伝い一般 **147**人

→**¥102** 現在では**408,000**

左官 **8**人

→**¥8** 現在では**¥32,000**

大工 **258**人

→**¥219** 現在では**¥876,000**

旧宅

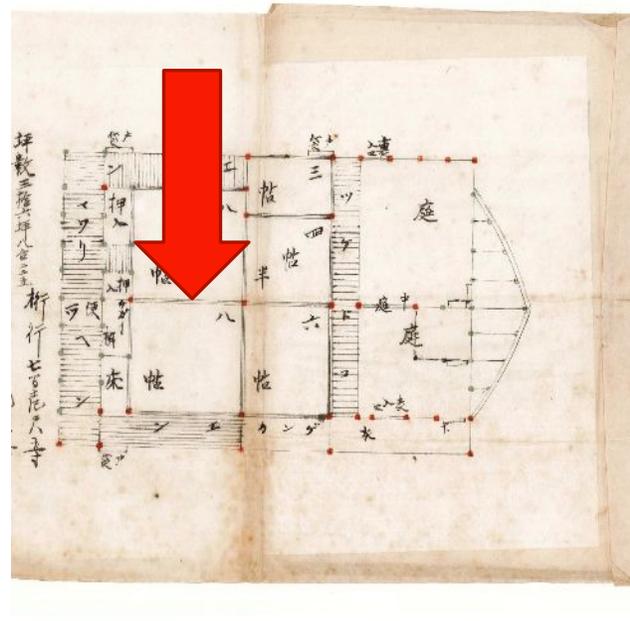
建て替え前の家の写真で、推定ですが明治時代中期から後期だと考えられます。壁の名残や位置などは似ているところもあります。

写真の左から**2**番目に写るのが僕の高祖父に当たる方です。後ろに映っているのは黒子で、写真撮影の際にあまりにも動くので体を抑えていたそうです。



居間

この部屋は設計書でいちばん1番手前の8畳にあたる部屋です。この居間には日本家屋特有の違棚やお床の間などがあります。縁側からは庭を望むことができ、生活していく中での居心地の良さが感じられます。縁側に面しているため風通しも良く、湿気が多い日本特有の気候に対応して建てられていると考えられます。





五右衛門風呂

建設当時、写真のようにタイルを貼った風呂は少なく、釜を三和土で固めただけのものが多く、近隣の住民がひと目見ようと風呂を見にくるという人もいたそうです。この風呂は三和土で固めた上からタイルで貼ってあるため、耐久性に長けており、建設後、一度中の釜を取り替えるだけで修繕は一切行っていないそうです。僕の父もこの風呂に入ることがあったそうですがもう**40年**近く誰も使っていないため、劣化や損傷が激しくなっています。

写真右:五右衛門風呂の釜 左:現在の五右衛門風呂

屋根



腰屋根という技法を用いて建設されています。腰屋根とは、屋根の上にもう一つ小さな屋根を設ける方法で、腰屋根の部分では、光を取り入れる他に蚕を育てるなどに使われていました。



米蔵

米蔵には米を貯蔵する他に、農作業具や肥料なども収納されてきました。現在でも農作業具が収納されており、風通しがよく、米を貯蔵しやすように設計、工夫がなされています。また、天井が高く、大きいため米をたくさん貯蔵できます。

衣装蔵

衣装蔵には衣装(着物などの衣類)の他に災害などに備えて、貴重品や重要な書類などを保管していました。写真左上の扉は災害時に脱出するための舟に繋がっています。(詳しくは災害脱出の舟に有り)この蔵の手前には、衣類の着替え場(試着室)があります。



災害脱出の 舟



宇治川や木津川が近くにあるため、洪水が起きる可能性が高く、水害の対策はよくされていました。蔵と住居の間に小舟を置いて、洪水が起きて浸水した際に水上を移動できるようになっていました。現在は舟は置かれていませんが、跡が残っています。

井戸

今では数が減ったポンプ式の組み上げ井戸が残っています。現在は井戸が枯れてしまっていますが、(写真上)の手洗い場では今でも井戸水が使われています。





縁側

縁側にはケヤキの一枚板が使用されており、強度が高く耐久性に優れており、建設後一度も交換されていません。縁側についているガラス障子は普段の出入り口として使用されており、客人などの出入り口として正面玄関が使用されていました。

腰屋根



腰屋根の部分では蚕を育てたり、物置小屋、納戸として使われていました。現在は老朽化により、腰屋根の部分に物を置いたり上ったりすることはできなくなっています。写真は腰屋根へ上る入口があった跡です。現在は蓋がされています。

昔と今を 比較しよう①



建物の正面玄関は、いくつか改築、改修されている点があります。玄関の扉を障子張りのものから、ガラスのものに。扉の横には窓が付けられています。この窓は、40年ほど前、図面上の庭の部分に部屋を作ったため、ここに窓ができる形になりました。

昔と今を比較しよう

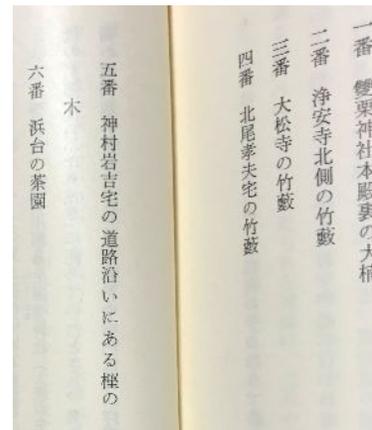
②

住居を出て右手には庭が広がっています。庭と玄関アプローチとを分けるために、塀が立っていましたが現在では取り除かれ庭への扉がのみがたっています。塀が取り除かれたことによりアプローチからも庭を見わたすことができます。写真右端に写っているのが僕の祖母です。



大榿の木 オオカシノキ

久御山町佐山では、狐が夜中に家の庭木に登りいたずらをするという言い伝えがありました。そこで狐にいたずらをやめてもらうために、油揚げを入れた赤飯を三升ほど炊いて小さな握り飯を作り、小さく切った油揚げとともに、竹籠に入れて、決まった場所に置きます。その中に、「神村岩吉宅の道路沿いにある榿の木」がありました。その後わかったことですが、付近の若者が木に登って道を通る人にいたずらをしていたそうです。



離れ



現在は農具置きになっていますが、祖母が子供の頃は借家として利用されており、ご夫婦が住まわれていたそうです。この建物は戦後に建てられたもので、借家の前は離れとして使われていました。



研究を終えて

祖父母の家について調べてみて、自分が思っているより遥かに古いということがわかりました。**105年**という長い年月の間、家を大切に守っている人がいて、壊れてしまったところを直したり、新しくしたりして、古い物を大切に受け継ぐことは、**SDGS**にもつながることです。これからも家を大切にして、自分の代やその次、次の次の代まで、受け継いでいけるようにしたいです。また家を守ってきた祖父母や曾祖父母、高祖父母などになって、自分も家を守りたいと思いました。

出典

三菱UFJ信託銀行

<https://magazine.tr.mufg.jp/90326>